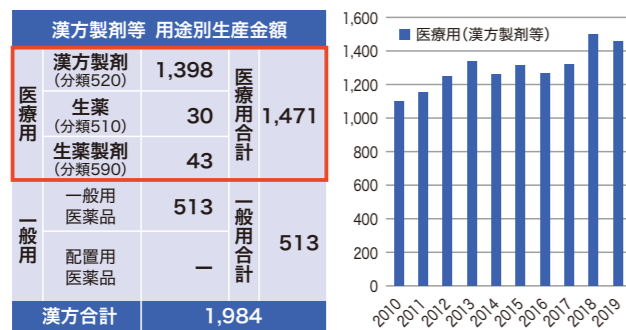


研究会開催の経過

- ◆ 研究会Ⅰ : がん領域 (2016年 8月 3日)
- ◆ 研究会Ⅱ : 高齢者医療 (2016年10月26日)
- ◆ 研究会Ⅲ : 品質確保と安定供給 (2016年11月21日)
- ◆ フォーラム: 研究会取り纏め・提言骨子 (2017年 2月 9日)
- 漢方の将来ビジョン研究会2017 (2017年12月12日)
- 漢方の将来ビジョン研究会2018 (2019年 2月 5日)
- 漢方の将来ビジョン研究会2019 (2020年 2月 5日)
- 研究会提言更新 (2021年 2月15日)

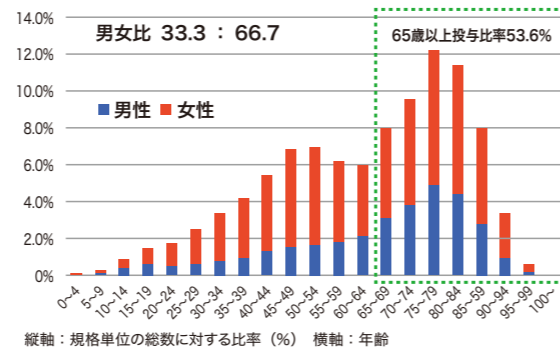
※参考 漢方薬の現状

漢方製剤等 用途別生産金額 (単位:億円)



厚生労働省「令和元年薬事工業生産動態統計年報」

年齢別、男女別の漢方薬投与比率



厚生労働省 第5回NDBオープンデータより作成

漢方薬に今後期待する役割

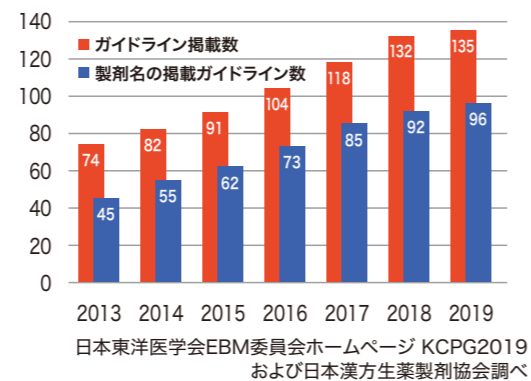
順位 (前回)	期待する役割	回答率%
1 (1)	西洋薬の補助・補完	67.1
2 (2)	西洋医学で解決できない疾患	51.7
3 (4)	不定愁訴	47.0
4	全身症状の改善・体質改善	29.5
5 (5)	慢性疾患	27.6

株式会社アンテリオ 2008年・2011年漢方薬処方実態調査

- 漢方薬を現在、処方している医師: 89% ※¹
- 漢方医学教育: 全医学部・医科大学、薬学部・薬科大学で実施 ※²
- 漢方外来: 79 大学病院、103 臨床研修指定病院 ※²

※¹ 2011年 株式会社アンテリオ調査
※² 日本漢方生薬製剤協会調べ

漢方製剤の診療ガイドライン掲載数推移



国民の健康と医療を担う 漢方の将来ビジョン研究会

【提言書概要】

2021年2月 更新

研究会組織

- | | | |
|--------|---|---|
| 会長 | 高久 史磨 | 地域医療振興協会 会長 |
| 代表世話人 | 鳥羽 研二 | 東京都健康長寿医療センター 理事長
国立長寿医療研究センター 理事長特任補佐 |
| 世話人 | 合田 幸広 | 国立医薬品食品衛生研究所 所長 |
| | 秋下 雅弘 | 東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 教授 |
| | 堀江 重郎 | 順天堂大学大学院医学系研究科泌尿器外科学 教授 |
| | 河野 透 | 札幌東徳洲会病院 先端外科センター長 医学研究所 所長 |
| 委員 | 中川 俊男 | 日本医師会 会長 |
| | 山本 信夫 | 日本薬剤師会 会長 |
| | 河本 滋史 | 健康保険組合連合会 常務理事 |
| | 伊藤 隆 | 日本東洋医学会 会長 |
| | 小松 かつ子 | 富山大学和漢医薬学総合研究所 所長 |
| | 袴塚 高志 | 国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 |
| | 手代木 功 | 日本製薬団体連合会 会長 |
| オブザーバー | 厚生労働省、農林水産省、文部科学省、内閣官房
医薬品医療機器総合機構 (PMDA)
日本医療研究開発機構 (AMED) | |
| 共催 | 日本東洋医学会、日本漢方生薬製剤協会 | |
| 後援 | 日本製薬団体連合会 | |

【問い合わせ先】

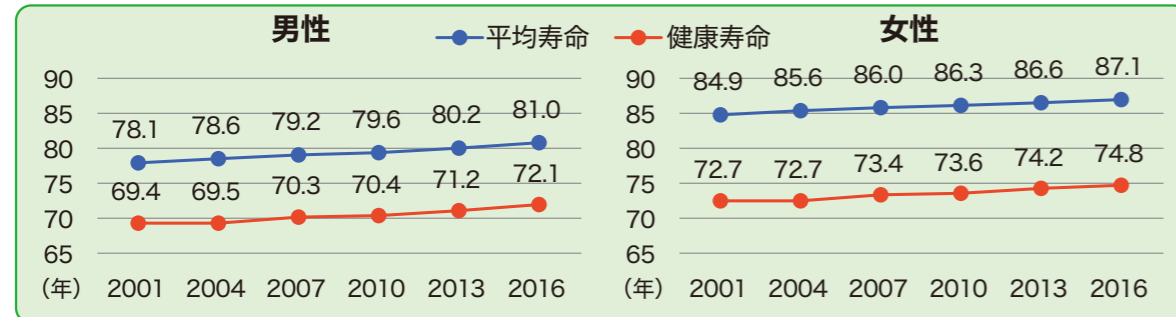
日本漢方生薬製剤協会
〒113-0034 東京都文京区湯島3-7-7 オーシャンズファイブ4F
TEL 03-6284-2524 FAX 03-6284-2534
URL <https://www.nikkankyo.org>

国民の健康と医療を担う漢方の未来ビジョン研究会 提言概要

医療用漢方製剤等は国民の健康と医療に必要不可欠

日本社会の人口・疾病構造

- 65歳以上人口3,589万人(高齢化率)28.4%
- 健康寿命と平均寿命の推移



高齢者の死因となった疾病

1位 悪性新生物(がん) 2位 心疾患 3位 老衰 4位 脳血管疾患 5位 肺炎

介護が必要となった主な原因

認知症 18.7% 脳血管疾患 15.1% 高齢による衰弱 13.8% 骨折・転倒 12.5%

「内閣府令和2年度版高齢社会白書」

高齢者医療の特徴

- 複数疾患、多臓器疾患が多い
- 心身の虚弱状態(フレイル)から疾病が重篤化する
- 病気と闘う患者に寄り添い、健康寿命の延伸に資する観点から個別化医療が重要視されている

漢方医学の特徴

- からだ全体を診ることで症状をもたらす原因を追究し、からだ全体のバランスを整え回復させる
- 複数の症状にも1剤で対応できる場合がある

漢方薬に期待されること

◆ 国民の健康のために

- 高齢者医療など有効性・安全性に係るエビデンスの集積がさらに進むこと
- 薬剤負担軽減の観点から医療経済学的な研究がさらに進むこと

◆ 漢方薬がより使いやすくなるために

- 漢方治療の標準化として診療ガイドラインへの記載がさらに増えること
- 高齢者でも服用しやすい剤形の開発、研究が進むこと

◆ 漢方薬が安定的に供給され続けるために

- 天然物である原料生薬が、将来にわたり安定的に確保し続けられること
- 医療用漢方製剤等が安定供給できるよう、医療保険制度上で位置づけられること

漢方が国民の健康と医療にさらに貢献するための6つの提言

1. 医療における漢方製剤等の必要性

- ◆ フレイルに対する全身状態の改善
- ◆ がん支持療法に対する全身状態の改善

2. 漢方製剤等に係る研究を推進

◆ がん領域

- ① 西洋医学と漢方医学の融合によるがん支持療法の更なるエビデンス構築
- ② バイオマーカー(レスポンダーマーカー)の開発

◆ 高齢者医療

- ① ポリファーマシーの視点をも含めた安全性データ(副作用、相互作用)の蓄積や西洋薬(睡眠薬等)の副作用対策としての有用性検討
- ② “フェノタイプ”と“証”の整合性研究(漢方医学的診断スコア等の臨床的エビデンス構築、漢方個別化医療の推進)

◆ 医療経済学的研究の推進

◆ 研究支援体制の構築と研究費支援

◆ エビデンスに基づく診療ガイドラインへの掲載

3. 漢方製剤等の品質確保と安定供給に向けた取り組みを推進

- ◆ 漢方製剤等に関する「リポジショニングや新剤形等のための品質保証および承認申請に資するガイドライン」の整備
- ◆ 原料生薬の安定確保に向けた国内栽培の推進

4. 医療保険制度における位置づけ

- ◆ 医療用漢方製剤等の保険医療上の必要性の確保
- ◆ 安定供給に向けた薬価の適正化(基礎的医薬品として位置づけ)

5. 日本オリジナルの薬剤である漢方製剤の海外展開の推進

6. 産官学・国民との連携

- ◆ 生薬、漢方製剤等に係る研究者・技術者の人材育成
- ◆ 国民(患者)への啓発・アウトリーチ活動の必要性
 - ① 漢方のエビデンスやフレイル等の啓発活動の推進
 - ② 大学等や国民(患者)へのアウトリーチ活動
 - ③ 国民の理解と納得に基づく合意形成
- ◆ 漢方に係る国内外の諸課題に対応する行政担当官の配置(ICD-11「日中韓の伝統医学(漢方医学)」等)